

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	府中市子ども発達支援センター（児童発達支援事業）		公表日		2026年 3月 2日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	33	1	・クラス内で子どもが走り回れる空間を確保している。 ・スペースを見ながら人数構成している。室内パーテーションを使用して環境を整えている。	・支援室の広さは、1クラス6～7名の子どもに職員4名を基本とし、じっくり遊ぶ子ども走りたいたいも含め、十分な広さがある。引き続きクラスの様子や活動に合わせて空間の整理する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	32	2	・1クラスの人数に対し、4名の配置を基本としている。 ・全体を把握する、全クラスに対応できる体制としてクラス固定でない職員を配置し、年度替わりや行事時期、クラスの子どもの状況もみながら、必要時に職員がフォローに入れるようにしている。	・子どもの発達段階を理解した上で、子どもの現状にあった支援を考え、子どもと保護者への対応ができる職員の基本的スキルをあげることが求められる。 ・大人が多いことで子ども同士の関わりや自立の妨げにならないように職員配置をおこなう。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	31	3	・電気・エアコン・扇風機のスイッチが子どもの手が届くところにあるため、壁と同じ色の布やテープ等で目立たないようにし、その他刺激になりそうなものは隠す等の工夫をしている。 ・構造化された環境を意識している。	・窓や棚の高さが低い事や階段が狭く登・降所時は混雑するなどの構造の問題は職員同士で情報を共有しながら対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	31	3	・清掃業者に毎日の定期清掃を委託しており、長期休みには職員側で定期清掃で手が回らないところの清掃を行っている。	・砂場、あおぞら広場が北向きのため、水はけが悪く常にじめじめしている。砂場周囲はコケも発生するので、可能な限り清潔を保てるようにしながら、施設管理担当者と定期的に確認する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	31	3	・静養室やホールを必要な時に使用できるように準備している。	・子どもにとってより有効な使い方ができるよう、検討する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	28	6	・職員間で振り返りを行い、共有している。	・C (Check、評価) とA (Action、改善) の意識が低く、次につながりにくい。全職員で効率よく共有すべき内容を把握できる方法を模索する。 また、決定事項を確実に振り返ることができる仕組みを作ることが課題。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	34	0	・自己評価（毎年）・第三者評価（3年に1回以上）を実施し、業務改善につなげている。 ・日常的に、連絡帳や送迎時の申し送りを通じて意向等の把握につとめている。	・引き続き、いただいたご意見について検討し、必要な業務改善につなげる。 ・支援については引き続き丁寧に保護者と共有する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	32	2	・クラス、ユニットごとに定期的に話し合う機会を設けている。	・職員の意見集約する機会を設け、必要な意見や案は取り入れながら、業務改善に務める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	34	0	・第三者評価を行っている。（3年に1回以上。R7年度実施） ・第三者評価を実施していない年度は、自己評価について第三者評価機関が参画している。	・今年度第三者評価を受審し、業務改善に生かせるよう検討する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	34	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な研修は毎年実施し、入職年度に関わらずうけられたり、繰り返し受講することで、最新の知見を再確認できるようにしている。</li> <li>日々の対応に活かせるよう、少人数のグループワークを増やし、他の人の考えを聞く機会をもつことでチームとしての視点をもてるよう工夫している。</li> <li>外部研修の情報提供、法人全体をはじめとした研修体制があり、必要な研修を受講するよう、積極的に声をかけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人が学ぶべき内容を優先順位や順序をつけてマニュアル化する。到達目標を明確にし、分かりやすくすることで新人職員側もOJT担当者側も見通しが持てるようにする。</li> <li>明確になった到達目標を照らし合わせ、事業や担当者の習熟度を確認する。到達した目標に合わせて必要な研修を計画する。</li> </ul>
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	34	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人HPや保護者向け連絡帳アプリにて支援プログラムを公表している。</li> <li>具体的な2週間ごとのプログラムについても各クラスにて作成し、全クラスで物品や部屋の調整を行った上で連絡帳アプリと廊下にて事前に保護者に公表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスごとの具体的な週間プログラムの周知については、連絡帳アプリと事業所内掲示を継続する。</li> </ul>
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	33	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画作成前に保護者のニーズを聞き、心理士や作業療法士等の意見も取り入れながら計画作成を行っている。</li> <li>発達検査や発達のものさし（クラス職員によるアセスメントツール）の活用をしている。</li> <li>心理士に見てもらうことで、色々な視点で考えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達や生活に即した支援をするための情報収集が不足している部分もある。アセスメント力をつけることを目指す。療育指針を職員で共有する。</li> </ul>
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	33	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスで話し合いを行っている。クラス担任、通園担当心理士、作業療法士、言語聴覚士、看護師などの多職種の観点も含めて検討している。</li> <li>子どもの特性を踏まえて丁寧に検討されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援計画の作成にはクラス職員が関わっているので、子どもの特性を踏まえた計画ができています。作成した支援計画をいつでも共有できるような仕組みを作る。</li> </ul>
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	34	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスで話し合いを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常レベルの支援で各自が意識して関わられるように、プログラムを貼りだす際に活動の目的と児童発達支援計画に沿った留意点をクラスごとに共有できるようにする。</li> </ul>
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	33	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士による発達検査、クラス職員によるアセスメントツール（発達のものさし）で発達段階の確認を行っている。</li> <li>発達のものさしを使うことで、5領域（社会性、運動、身辺自立、理解認知、表出言語）の発達の現段階が共有できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達のものさしを利用しているが、まだうまく活用できていない部分もある。研修などを通して具体的な使い方について探る。</li> </ul>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	33	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画書式に領域のチェック欄を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体性にかけるものがあり、評価しにくいこともあるので、短期目標を具体的な内容に設定することで、保護者と共有しやすい内容にする。</li> </ul>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	31	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス・ユニット間で行っている。</li> <li>まずは常勤職員が立案し、クラス内で確認し内容や進め方は共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種の視点で活動を振り返り、その意見を取り入れ改善する視点を継続する。</li> </ul>
適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達に合わせたプログラムを検討している。</li> <li>プログラムが同じでも子どもによってねらいが異なる場合があり、職員間で共有しながら工夫している。</li> <li>子ども自身が、継続した体験を積み重ねることで「わかった」「できた」感覚をもてるよう、あえて決まったものを繰り返しているものもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年数の浅い職員は引き出しが少なく悩むことがある。日々の業務の中で職員間で意見が出しやすい環境作りをする。</li> <li>プログラムで取り扱う素材や方法についても子どもの興味に合わせて工夫ができるように新しい情報も収集する。</li> </ul>
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	30	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の課題に応じて専門職による個別活動が行える時間を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通園としての療育のベースとして、小集団での活動を実施している。同じプログラムを提供しながら、個々の課題や興味に応じて、個別の目標設定や支援をする。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	31	3	・朝の全体ミーティングの時間を短くして、各クラスの打合せ時間に充てるように意識している。 ・バス添乗や会議等で全員そろってできない場合は、口頭やホワイトボードで伝達するなどの工夫をしている。	・職員がバス添乗することで活動の前後の打合せ、振り返りの時間が持ちにくい。バスシフトを再編して、バスの添乗のない日を各クラスごとに設定するなどの工夫をする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	33	1	・休憩時間を考慮しながら話し合いの時間を設けている。 ・バス添乗や会議で全員で出来ない時も多いが、短い時間でポイントを共有する意識をしている。	・職員打合せ/連絡帳記入/片付けや準備/バス添乗/会議等の時間の使い方を整理し、それぞれのやりかた、内容も検討が必要。子どもにとって、よりよい支援のために必要な振り返りや打合せ、活動準備をおこなうが、職員の健康のために必要な休憩時間も確保する。 ・バス添乗業務による時間の使い方は引き続き工夫する。 ・話し合いの記録を残して内容の共有をするとともに、話し合いに出席できなかった職員の意見も聞けるシステムが必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	32	2	・ケース記録システムに日々の様子を記入している。	・記録の内容や量など、担当者やクラスによる差もみられ、必要な情報の記録漏れがないよう担任間で確認、意見交換を心がける。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	33	1	・定期的にクラスミーティングをもち、支援計画の目標の達成段階について、確認している。	・ケース検討等をブラッシュアップし、計画的に実施することが必要。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	32	1	・クラス担任が参加できるように調整している。	・療育活動時間中の会議設定が多いため、クラスの状態にもよるが、引き続き直接のクラス担任も参画できるよう調整を行う。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	32	1	・子育て世代包括支援センター、医療機関、相談支援事業所との連携やコア事業所としての連携会議等を通じて、支援内容の確認を行っている。	・引き続き、連携、情報収集を行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	33	1	・移行前に書類等でやりとりを行い、移行後は訪問を行い情報共有をしている。 ・並行利用はおこなっていないが、年少、年中児に移行については園への引継ぎの他に保育所等訪問支援の案内やグループへの情報提供も行い、相互理解を図っている。	・引き続き、移行の前後の保護者や子どものフォロー等を行う。 ・移行先への引継ぎを丁寧に行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	33	0	・在園中の情報共有や様子観察も希望があれば対応している。 ・就学移行時に児童票を作成し、学校に訪問し直接引継ぎを行っている。	・引き続き、移行の前の保護者や子どものフォロー等を行う。 ・移行先への引継ぎを丁寧に行う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	27	6	・児童発達支援事業所連絡会への参加や近隣の児童発達支援センターとの情報共有の機会を作っている。 ・4団体でつくる障がい児療育研究会に所属し、情報交換や職員の研修を行い、質の向上を図っている。 ・児発センターとして連絡会の実施や関係機関職員研修、巡回相談等に取り組んでいる。	・引き続き、児童発達支援センターとして、地域資源と現状に合わせ計画する。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	28	0	・資質向上委員会で研修等の情報提供を行い、積極的な研修の参加を促している。	・年間計画に縛られず、タイムリーに必要な研修を取り入れる。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	26	3	・施設としては総合相談を中心に参加している。	・児童発達支援部門としても、求められる会議に積極的に参画する。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	31	0	・今年度は通園利用者全員を対象に12月に保育所交流を行った。年中長は保育所へ行き、年少は近くの保育園と公園で合流して交流した。 ・散歩や公園で保育園児と活動が重なるときなど、日常的にあいさつや遊具の共有などでも交流やかかわりを意識している。	・保育所等との交流プログラムについて、複数のプランを持ち、その年の状況に応じて取り組む。 ・引き続き、保育所との連携会議等でお互い交流可能な方法を相談しながら展開する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	31	0	・連絡帳アプリや送迎時に子どもの共有を行っている。必要に応じて常勤が電話などで保護者と連絡を取っている。	・連絡帳アプリでは文章のみのやりとりになるので、細かいことが伝わるか、共通理解ができているかが不安な部分もある。直接職員とご家族がやりとりすることで、より理解が深まり、共有できる意義があると考え、対応や伝達方法についても工夫する。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	31	0	・心理士など専門職を中心にペアレントプログラム(勉強会やフリートーク)を行っている。 ・家庭での関わり方に活かせるように活動参加や参観を設定して、実際の療育場面での対応をみてもらい、説明する機会を作っている。	・年間を通じたプログラムの見直しを作り、保護者の意向や子どもたちの状況を把握しながら、柔軟に企画や情報提供ができるようにする。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	31	0	・入園時に説明だけでなく規定やマニュアル保護者が手にとってみられるようにしている。	・引き続き、分かりやすい説明を心掛ける。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	31	1	・面談や来所時だけでなく、日々の連絡帳などのやりとりからも拾い上げ、意向確認している。	・引き続き、丁寧に意向の確認をする。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	32	0	・支援計画について説明する時間を設け、同意のサインをもらっている。	・引き続き、保護者と方向性の共有するための大切な時間という意識で取り組む。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	32	0	・連絡帳や電話等で相談に応じている。 ・担任だけでなく、相談内容によって医師や心理士などの面談を組むなど適切に応じている。	・保護者支援、保護者来園の機会作りについて、年間通してクラス担任と話せる機会、来園しやすくなる工夫をし、相談しやすい関係をつくる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	31	1	・保護者会・クラス懇談会、ペアレントプログラム、行事などを通して保護者同士の交流の機会を増やしている。 ・運動会や同窓会などきょうだいも参加できる行事をおこない、自分のきょうだいが通っている場所を知ってもらう機会を作った。土曜日の講演会時には、きょうだい預かりで来園した小学生同士で交流を持てるようにした。	・その時々保護者のニーズやアンケートに基づいて、ブラッシュアップする。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	32	0	・電話や面談を組むなど、すみやかに対応するようにしている。	・引き続き、相談や申し入れに対しては、必要に応じて組織としても検討しながら対応する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	32	0	・連絡帳アプリを活用し、毎月のおたよりの発行、プログラムや行事のお知らせ、身体測定計測値など随時お知らせしている。	・引き続き、すてっぷ内での子どもの様子が伝わるようなおたより作りを目指す。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	32	0	・個人情報取り扱いマニュアルを作成し、それに沿って取り扱いをしている。 ・書類や情報の整理、管理方法で不十分だったところは改善した。	・書類や情報の整理、管理方法で不十分だったところは改善し、より一層注意して取り扱う。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	32	0	・視覚支援の活用、ジェスチャー等本人の表現の手段を尊重しつつ対応している。 ・心理士とも相談しながら行っている。	・引き続き「よりわかりやすく伝える」ということを考えながら支援・工夫する。子どもたちに対しては発達段階など個々に合わせたコミュニケーションを図る。保護者に対しては分かりやすい言葉、図や写真を使うなどより分かりやすい情報伝達方法を考える。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	23	8	・施設としては行っていないが、交流行事や法人としての福祉センターまつり等で事業所紹介を行っている。 ・卒退園したOB・OGが遊びに来られる日を作っている。	・通園以外の事業の把握が不十分なため、児童発達支援センターや社会福祉協議会としてどんな事に取り組んでいるか共通認識が持てるように周知する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	32	0	・定期的実施 ・いつでもマニュアルが確認できるようになっている。	・避難訓練の実施回数を増やし、より具体的な想定ができるようにする。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	32	0	・災害の種類に合わせての訓練を行っている。 ・避難訓練については子ども達も参加している。 保護者には引き取り訓練を実施している。	・災害訓練の回数を増やすなど、より実践的に職員が理解し、実際に動けるよう充実させる。 引き続き職員全員が認識できるよう周知、研修を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	32	0	・入園前の保護者・医師の面談で確認。	・引き続き、入園児のしっかりとした情報把握と、変化があった時の情報更新を確実にを行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	32	0	・食物アレルギー対応マニュアルに従って、医師の指示書を提出して頂いている。医師の指示書をもとに個別プランを作成し対応を行っている。	・主治医からの指示、すてっぷでの対応と実施体制の確認、給食委託業者への指示、アレルギー対応の遂行・見直しを確実にを行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	32	0	・各職員が意識できるように定期的に研修や安全チェックをしている。	・マニュアル類を日常の対応で確認し、さらに必要なものがあれば追加する。引き続き職員全員が認識できるよう周知、研修を行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	34	0	・保護者には安全計画に基づき安全性を説明した上で着衣など持ち物についてご協力をいただいている。	・説明、掲示を行っているが、加えて実際の対応や訓練の都度、安全計画について知らせる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	34	0	・クラス又は事業全体で共有し、再発防止策を確認している。定期的に振り返り持続して対応できているかの検証も行っている。	・ヒヤリハットについては、インシデントの統計が大切と認識しているため、引き続き小さな気づきを全職員が挙げやすいように取り組む。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	34	0	・虐待防止研修を受講し、受講者が伝達研修を実施している。	・発見通報の視点と、職員が虐待につながる対応をすることを防ぐ視点から、虐待に関する理解を深めることを目的に、研修や相互確認を行う。引き続き職員全員が認識できるよう周知、研修を行う。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	32	2	・支援計画の説明時に説明を行い了解を得ている。	・分からないという職員がいなくなるよう、定期的に記載箇所の周知や内容の説明する。